

議 会 だより



小豆島町

No.42

平成28年11月1日 発行



初めての収穫体験

中山千枚田 棚田オーナー

- 審議議案
8月臨時会・9月定例会について … 2
- 一般質問
12名の議員が質問 …………… 3
- 住民の声・町の力 …………… 10

8月臨時会

第1回臨時会は8月18日に開催され、契約案件4件が提案され、それぞれ原案通り可決されました。

工事請負契約

内海病院跡地利用改修に係る工事関係

福祉施設に係る工事
契約金額 1億3,952万円

機械設備工事
契約金額 4億2,876万円

田中電気工事株式会社
契約金額 2億9,808万円

電気設備工事
契約金額 1億8,608万円

安田ポンプ場自家発電整備工事に係る工事
契約金額 6,912万円

契約先(株)東芝四国支社

9月例会

第3回定例会が9月14・15日に開催され、平成28年度の補正予算議案が4件、委員会付託が2件、契約案件2件、その他案件2件が可決され、委員会報告2件、健全化判断比率等の報告が5件ありました。また、平成27年度決算認定議案については、決算特別委員会において集中審議されることとなりました。

一般会計 追加補正予算額 1億3,952万円

審議した主な議案

補正予算

一般会計(第2号)

追加補正予算

1億3,952万円

補正後の予算総額

106億4,071万円

その主な内容は左記の通りです。

総務費関係

町営バス購入費

2,007万円

三都東線及び西線で利用しているバスの老朽化のため、買替を行うものです。

民生費

草壁会館耐震診断

業務委託料

197万円

草壁会館の耐震診断

を行うものです。

衛生費

物件補償調査委託料

422万円

一般廃棄物次期最終処分場候補地の調査費用です。

小豆島中央病院企業団負担金 9,484万円

3月まで内海病院の職員であった者に対する賞与引当金と、医師の宿舍建設に係る費用等です。

農林水産業費

水産業振興補助金

200万円

池田地区の漁業の振興に対する補助金です。

土木費

道路改良舗装工事

その他審議事項

内海ダム線の拡幅工事等です。 505万円

内海病院跡地利用改修工事(庁舎)に係る

工事請負契約

契約金額

1億1,340万円

契約相手方

有限会社 真砂建設

サン・オリーブトレーディング機器類等更新事業に係る物品購入契約

契約金額 1,083万円

契約相手方 セノ一株式会社

小豆島町の区域内にあるに生じた土地の確保について

公有水面埋立てに伴いあらたに生じた土地の字の区域の変更について

編入された面積

田浦字切谷

208.27 m²

古江字火崎

49.38 m²

辺地総合整備計画の変更について

平成27年度小豆島町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について

報告

健全化判断比率

財政の健全性を示す健全化判断比率と、簡易水道事業・上水道事業・介護老人保健施設事業・病院事業会計での資金不足比率が公開され、いずれの数字も問題ないとの報告がされました。

しかし、今後の見通しとして、内海病院の跡地活用、次期最終処分地の整備、小豆島高校の跡地利用等、多額の財政需要が見込まれています。

その一方で、普通交付税の合併算定特例が段階的に縮小しており、今後の財政運営は予断を許さない状況が予想され、これまでで

上に、効率的で効果的な施策の推進が求められています。

委員会活動報告

教育民生常任委員会

平成28年7月8日、8月4日の2回委員会を開催し、次の問題について意見を出しました。

「一般廃棄物の最終処分場建設について」

- 候補地に対して、早急に地元関係者との協議を進められたい。
- 次期最終処分場完成までの間、災害時の対応も協議願いたい。

「認定こども園について」

「これからの学校のあり方について」

- 就学前教育・義務教育を考える中で、認定こども園計画を一時凍結に賛同する。
- 学校の将来計画にあたっては、子供たちの教育に出来るだけ支障が生じない様、検討願いたい。



中村 勝利 議員

若者向きの

一戸建て町営住宅を

町「まずは空き家の活用に

力を注ぎたい」

質問

町は地域の活性化、観光の目玉として水族館の誘致に取り組んできたが、事業者が屋島で引き続き経営をしたことと、誘致は無理ではないかと思われる。そこで水族館を予定していた坂手の町有地に、若者向きの一戸建て町営住宅を、建てて頂きたい。

町人口が急激に減少している中、Uターン、Uターン、結婚した地元若者が安心して定住できる住宅が必要ではないか。

答弁

小豆島町へは毎年100名を超える移住者が若者を中心に移住している。Uターン、Uターン、地元若者によって必要な施策として検討したい。坂手の住民、町議会、町民全体の意見を聞きながら考えたい。

この事業をやる場合には、国のあるとあらゆる財政支援措置等を活用して実行していきたい。町では空き家バンク制度を立ち

海産物の流通と

加工について

町「今後方で

頑張っていきたい」



谷 康男 議員

質問

町長は瀬戸内海の復権を政策課題の一つとして掲げているが、瀬戸内海の復権を目指すには島で獲れた魚介類を広く観光客や住民に提供することが大切だと思ふ。

小豆島町内の漁業の実態と海産物の流通・

加工について、行政としてどのように把握し、どのような施策がとられているのか。

答弁

就任以来、瀬戸内海の復権という課題については重点的に取り組んできたつもりだが、漁業の復権とか再



定置網漁の様子

漁業の復権は小豆島の復権に欠くべからざるものだと思う、今後全力で頑張っていきたい。

町内の港湾施設の耐震化対策について

町「要望活動を行う必要がある」

質問 近い将来起こるであろう東海・東南海地震に対して町内にある港湾の耐震化はどうなっているのか、また災害が発生した際、自衛隊等の救援を受けるにあたり、どの程度の艦船が着岸できるのか。

答弁

港湾施設の耐震化については、残念ながら遅れている、国土交通省、香川県に対して議員の皆さんとともに要望活動を行う必要がある。

小豆島町内で耐震化対策された港は無い。着岸できる船の大きさは、旅客船の例でいうと、土庄港・池田港・



坂手港岸壁（昭和40年）

草壁港が3千トン級、坂手港で1万トン級程度の着岸が可能。



森 崇 議員

小学校統合問題と

子ども手当について

町「しっかりとした教育を子ども達にしてあげることが町長の責任と考えている」

質問 町長は一貫して「子どもは地域で育てられる。小学校は地域の絆づくりの拠点。子どもが歩いて行けるところに小学校があるべきで、私が町長である限り、存続させ統合することなく大切にしたい。地域にとっても必要だ」と答弁され、この数年間、施政方針でも表明してきた。しかし総合教育会議では「小高跡に中学校を、小学校を統合して中学校に」と進められており、唐突すぎると思う。

以前、財務省が全国で小中学校を5000校削減すると発表した時の質問にも「統合しない」と非常に明確な答弁だった。「平成32年の予測は池田小146名、星城小146名、

安田小126名、苗羽小131名だ。児童数は十分で当分統合する考えはない」との答弁だった。私は若い人の賃金が低すぎて「子どもを産めない」のが実態だと思う。皆が喜ぶ「子ども手当」を増やすべきだ。

このままだと小豆島だけでなく日本も成り立たなくなってしまうと思うが。

答弁 私自身（町長）

の子どもの時の経験から来ており地域にある小学校は残したいと一貫して申し上げ、今もその考えは変わらない。変わったと言われれば誠に申し訳ないが総合教育会議や教育委員会でも議論してもらっている。しっかりとした教育を子ども達にして



苗羽小学校

あげることが町長の責任と考えている。3割自治の実態は変わらず子ども手当を含め、国からの制約も強い。また小学校は古くなっており築後は「苗羽55年、星城49年、安田45年、池田35年」だ。10月以降、学校説明会を開き地域に出て意見を聞いていく計画だ。いづれにしても決定ではない。



安井 信之 議員

内海地区の小学校統合の

住民説明について

町「検討組織を設けて11月までに判断したい」

質問 町長の考えが変わった経緯、予算欠損について、住民に説明・謝罪すべき。考えが変わった時点で、教育民生常任委員会分で議論すべきでは。

答弁 小学校統合につ

町「どのような意図のサイレンであったかの放送を入れるようにする」

質問 9月2日未明にサイレンが轟き、2時間後にどのような災害だったのか放送であった。特に高齢者の方からサイレンが鳴ったので自分ほどの様な対処をすればいいのか不安があったと聞いた。放送の使い分けがあるのなら、周知するべ

きであり、ないならば全国で共通的なものをつくるべきではないか。

答弁 現在サイレンは、消防団招集サイレンと、Jアラートから流れる全国統一の緊急地震速報がある。今回の事案を受けて、町・小豆消防・町消防

団の責任者で、今後の対応についての協議をした。今後はサイレンの後にどのような意図のサイレンであったかの放送を入れるようにする。また、サイレンの訓練も検討する。



防災無線



坂口 直人 議員

小豆島オリーブバスの 安全性について

町「勘案しながら検討していく」

質問 福田港を利用する人の交通事故を防止するため、バスの発着場所をより安全な場所に移すか、スペースを確保できないか。

現在、福田港発着のバスは、走行車線上に停車している。バスを追い越そうとする車が

ぶつかる可能性や、歩行者の横断に気づかない可能性があるので検討しては。

狭い部分を通らなければならぬので、国道、県道の管理者である県への検討を要望したい。

小豆島オリーブバスの 訪日外国人に向けた情報整備は

町「積極的に対応するように働きかけたい」

質問 現在、小豆島オリーブバスに関するさまざまなことが多言語化されていない。バスに乗って降りるまでの流れを図解や多言語で解説したり、ウェブサイトを多言語化するこ

とで訪日外国人が観光しやすくなるのでは。

答弁 島内5つの港のバス停留所に、英語表記によるバスの乗り方に関する説明文や、英語表記で時刻表の上段



福田港前の状況

に掲載をするなどの対策を講じている。

今後ウェブサイトの多言語化を含め、小豆島オリーブバス株式会社に対して積極的に対応するように働きかけたい。



浜口 勇 議員

目前で大型船の往来がある 地蔵埼を観光資源に

町「色々な手段でPRしていく」

質問 瀬戸内海は日本列島に人が住み始めて以来、人の往来と物流は小豆島の南側か北側の海域を船によって盛んに往来してきた。

地蔵埼灯台から二面島までが「備讃瀬戸航路」として海の道にな

っており、小型ボートから15万トンを超える巨大船が目の前を右へ左へと行き交う景観はすばらしく、感動を覚える。特に夜になって九州方面へ向う1万トン級の大型フェリーがライトをいっぱいつけて航行する姿は一段と良いものだ。

このすばらしい眺めは地蔵埼しか見られませんが、更には多くの人に知ってもらおうべく宣伝に力を入れたらどうか。更にネーミングも

大切ですので公募する方法もあるのではないかと。

答弁 地蔵埼灯台からの眺望、船舶の行き交うさまはすばらしいものだと思う。黒島県議会議員も常々、小豆島内で一番いいところだと話している。

今回の瀬戸芸で広島市立大学の先生の作品が展示され、たくさんの方が鑑賞に訪れている。「三都半島見どころマップ」でも紹介されて

いる。今後も色々な手段でPRしてゆきたい。ネーミングについてはいろいろな方の意見を聞いて対応したい。



地蔵埼沖行くブルーラインの向こうは客船「にっぽん丸」2万2千トン



藤本 傳夫 議員

今後の財政需要の見通しは

町「具体的な財政需要はまだ計画が固まってははいない。今後、有利な財源の確保や基金の有効活用」に努めたい」

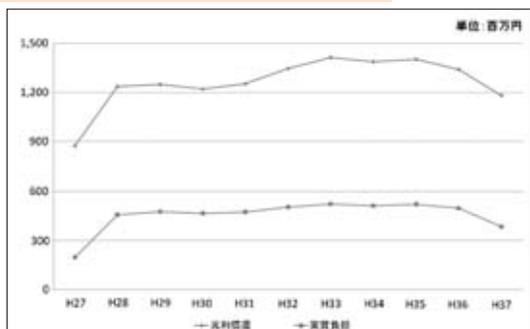
質問 本年度から内海病院の町債の残りが町に移され、病院、老健施設改装費が新たに加わる。最終処分場の整備、小豆島高校の跡地利用、改良住宅の建てかえ等の多額の財政需要が見込まれる。各々の事業規模と額、時期、全ての合計債務、単年度の返済額はどれ位になるのか。

や改良住宅の建てかえについては具体的な財政需要はまだ計画が固まっていないので答えられない。

今後の運営については、財政需要を出来る限り早く把握し、有利な財源の確保や基金の有効活用に努め、財政の健全性を保ちつつ町によって必要不可欠な事業を適切な時期に実施するのに尽きると思っている。

答弁 小豆島町の場合、辺地対策事業債、過疎対策事業債、合併特例債等の有利な地方債を活用し、実質的な単年度負担を抑制してきた。内海病院、老健施設の改修経費として20億円。最終処分場の整備事業費として20億円の事業費を見込んでいる。小高の跡地利用

意見 今年度末での債務は123億円位で処分場が約20億円。通常、基本財政需要額程度の借金が優良団体であり、その倍から3倍は危険領域ではないか。やらなければならぬ事業は必要だが、そ



公債費負担のシュミレーション

の前に余分に出ていく金はないのか。財政課は査定をもっと厳しくやってもらいたい。

小豆島高校跡地に中学校を移設する案に対し、小学校を直接建築した方が、経費的に安くすむのではないか。の質問もありました。



中松 和彦 議員

ふるさとの産業のイメージを取り入れ その素晴らしさへの認識を深めるには

町「知恵と力・技術力を 結集してゆきたい」

質問 小豆島では、醤油醸造業・製麺業・石材業をはじめ、佃煮製造・オリーブの栽培加工などの産業がさかんである。そうした産業のイメージを視覚化した町内の様々な場所に取り込むことにより、住民や観光客により深く自然な形で小豆島の印象を理解してもらえないか。

具体的には内海病院の庁舎への改造に対する提案もあったが、既存のものを多く活用し費用を安価にあげること

も大切であり、難しいところだ。

例えば、計画中の新庁舎へオブジェあるいは建築素材などとしての適用は。

また、先日完成した草壁港のアートトイレでは、島の石材を使えばとても魅力あるものになるというところが、建築家の手により実証された。

答弁 小豆島ではいろいろな伝統産業、地場産業がある。8月に行われた世界考古学会議プレッシャーでも参加者からその素晴らしさについて世界に比類なきものとの評価があった。

私たちも負けないように、知恵と力・技術力を結集し



草壁港に完成したアートトイレ (石の島の石)

県内の水道事業一本化の協議内容を問う

町「様々な角度からの検討・整理が重要、
29年9月本町での議決が必要」



松下 智 議員

質問 県内の水道事業運営組織の一本化は、平成30年度からの統合実施を目的に検討されている状況にある。本町がこの事業体に参加するか、否かは未決定ではあるが、広域水道事業への重要性を思う観点から問いたい。

①事業統合の目的面から、高度浄水処理システム（Ⅱより安全・安心な水Ⅱ画期的な技術革新）の導入は、設立準備協議会での検討内容と同時進行で、中・

長期的な視点から検討すべき重要課題の一つと思われるが、動向は。②危機管理面から、浄水場施設設備の耐震対策・テロ対策等は重要な課題と考えるが、検討は。③設立準備協議会での懸案事項等の現状と、今後のスケジュールは。

答弁 ①②③町の将来に向けた人口減少を考えると、水道水の安定供給と料金の高騰を一定程度に抑える観点から、設立準備協議会での議論に加わっている。一方で、危機管理面での責任体制などの本質的な問題も抱えている。根本的には、水道法の改正・県の方針などを聞いた上で、来年度の9月町議会において

て小豆島町としての最終的な判断を行うことになる。

その際には、高度浄水処理の問題・危機管理への対応等の問題も併せて、その他諸課題等の整理・見直しを図る必要があると思われる。



水道事業統合への参加は可能か？（内海ダム）



柴田 初子 議員

防災について

町「防災意識の向上、
高揚に努めたい」

質問 9月1日は防災の日。1923年の関東大震災の教訓を後世に伝えると共に自然災害に対する認識を深め、防災体制の充実と強化を期するために制定された。

7月31日小豆島土砂災害40周年行事を開催したが参加人数は。9月2日の早朝のサイレンについて、その時の状況と今後の対策は。防災意識を高めるために毎月1日に防災無線で啓発することは出来ないか。

答弁 今年、島をあげての総合防災訓練として、香川県・県警・陸上自衛隊・海上保安署・中央病院・日赤婦人部など全ての関係者

約千名が参加した。

今後も町全体、自主防災組織のある地域ごとに訓練を行いたい。

サイレンについては、人為的ミスで誠に申し訳なく、お詫びを申し上げたい。二度とないよう関係者の意識の徹底を図り、今後の対策としてサイレンの後に内容説明の放送をすることを決めた。

災害を知らない若い職員に対しては40周年の講演会参加を促し、翌日、現地を見て地元

の方からの説明をしていただいた。職員訓練は防災訓練の中で災害対策防災本部の訓練も同時に行っている。防災無線での啓発は、効果的な呼びかけ方法を検討して実施する。



小豆島土砂災害40周年行事での消防団員の訓練の様子

草壁港駐車場の確保は

町「埋立駐車場の利用を」



大川 新也 議員

点から、長期駐車場の調査、長期駐車場の設置等早急に対策を講ずる必要があると思えるが。

質問 草壁港駐車場については、以前から町有地及び地元企業私有地に駐車されていたが、今年6月から一部が駐車できなくなり、そのうえトイレ建設も重なり利用者は大変不便を感じている。沖の埋立地にも整備されているが、利用者の心理は乗り場直近の駐車場を求めらる。

しかし、直近の駐車場はいつも早朝から「満車」の状態である。また、そこに駐車している車には長期駐車も多く見られる。町として町有地でもあり、港湾施設整備の



常時満車の駐車場

答弁 まず草壁港駐車場に関しては、芸術祭作品展示またトイレ建設等が重なり、利用者にはご迷惑をお掛けしている事をお詫びする。駐車可能台数では他港と同等の確保はできている。埋立駐車場の利用をお願いしたい。長期駐車に関しては調査・対応を行う。

土砂災害40周年

防災訓練について

町「今後子供たちに体験させ、伝えていく」

質問 7月末に土砂災害40周年式典と防災訓練が開催された。内容は今までにない大規模なものであったが、島の子供たちの姿が少なかつた。当然、子供たちは大災害は知らず、経験もしていない。

しかし、警察を始め自衛隊・消防・保安庁・医師団等の訓練、テレビで観る光景が目当たりで体験できる良い機会であったと思えるが、なぜ子供たちを招かなかつたのか。

答弁 40年前の土砂災害は悲惨な災害であり、役場の職員も知ってはいるが、災害対応をした

者は現職ではない。当然今の子供たちも知らない。私たちも過去の災害のことを学び、訓練をする必要がある。子供たちは夏休みでもあり、体験できなかったのは残念であった。今後機会があれば子供たちに参加してもらい、教訓として伝えていく。



防災訓練の様子

プレミアム商品券の精査報告は

町「速やかに報告の機会を設ける」

質問 3月議会で「プレミアム商品券での経済効果、公平性等十分に精査して次年度の商品券発行を行う」と答弁があったが、何の報告がないまま今年度商品券が発行されている。時期尚早ではないか。

答弁 プレミアムについては、公平性、事務局の体制、事業実施について問題がなかったと精査した。議会への精査結果報告がなかったのは申し訳ない。今後プレミアム商品券発行に際しては、実施の有無を含めて議会と相談し、検討したい。

「町民ファースト」の町政が

町「初心を忘れず謙虚に頑張つて進む」

質問 瀬戸芸夏会期が終わり、島も多くの来島者で賑わったが、最近、瀬戸芸に限らず町政全般に関した町民から色々な声が聞こえてくる。評価する声、批判の声様々である。

今一度ここで立ち止まり、「町民ファースト」の町政を考えては。

瀬戸芸、イベント、講演会等島外者の力で町政全般が流れ進んでいくのかを心配する声もある。

答弁 町民の様々な意見があるのは承知している。謙虚に声を受け止め「町民ファースト」を心がけて、初心を忘れず頑張つていきたい。確認 「立ち止まらず、このまま進む」という考えと捉える。



鍋谷真由美 議員

地震防災

対策は

町「防災拠点 は老健へ」

質問 甚大な被害が予想される南海・東南海地震への対策は急務。震度7が2回発生、被害が拡大した熊本地震をふまえ、地域防災計画の見直しが必要では。

熊本では、耐震化が完了している学校でも内壁落下などの被害で、使用禁止となる報告があった。本町の学校耐震化の耐震基準はどうなのか。
防災拠点の庁舎や避難所となる公民館などの公共施設の耐震化も

急がれるがどうか。地震時の安全対策と防災への動機づけとして、家具転倒防止器具配布事業や、感震ブレイカー普及促進事業などを行っていただきたい。
災害後の業務の継続や早期再開に備える業務継続計画（BCP）は策定済みか。

答弁 国の検証、新指針が示されれば、地域防災計画見直しを行う。内海病院跡地を庁舎及び福祉施設へ改修工事完了後、現在の老健に防災拠点を設置する。旧内海病院、老健とも耐震基準は満たしている。

公共施設の耐震化は、耐用年数や設置場所などを含めて検討したい。安全対策の事業創設は、優先順位を検討する。BCPは来年度策定予定。

へりポート

整備は

町「平木埋立地で 早急に進める」

質問 平木埋立地に、へりポート整備するということだが、その後の取り組みと具体化の状況、費用、財源は。昨年の県防災へりの救急活動64回のうち、小豆地区消防本部からの要請は、53回もあった。新病院開院で、件数は減らないのか。

答弁 土庄町、小豆地区広域行政事務組合と協議し、必要性について理解は得られたと考える。概算で1,600万円の費用負担は土庄町と協議中。離島振興法を活用し実質負担を減らし、早急に進めたい。
救急搬送は患者の病状により増減し、高度医療の要請が増えるほど増える。



平木埋立地

内海保育所の 整備を急げ

町「苗羽幼稚園 を認定こども園 にし、3から5 歳の保育園児を 預かる」

苗羽幼稚園に移すということだが、具体的にはどのように進めるのか。兄弟で2か所に送迎が必要など、保護者や先生方の不安・疑問にもこたえ、少なくとも今より、より良い保育が早急に実現できるよう町民・関係者の声を十分に聞いて進めてもらいたい。

答弁 総合教育会議で、学校のあり方に関する協議が始まり、認定こども園の建設時期や内海地区幼稚園の統合時期などを検討する。認定こども園建築まで、3歳児以上を苗羽幼稚園で幼稚園児と一緒に預かることを考えている。内海保育所は0歳から2

質問 内海保育所の狭小問題解消のための建て替えは待ったなしだが、町長の方針・考え方が、町長のため、次々延期されていることは大問題。
4・5歳児の保育を



内海保育所

歳児までで、十分な保育環境を確保。職員トイレ改修や職員室の復活で、労働環境も改善したい。
苗羽幼稚園では、1クラスに最低2名の保育士または幼稚園教諭を配置し安全確保を図り、津波を想定した避難訓練をこれまで以上に徹底して実施する。保護者、職員には、今から説明し、理解をいただく。



「人の和・地域の輪」

稲本 仁

(片城自治会 総代)

片城自治会は、330世帯、人口710人、15地区で構成されています。

地区内には中学校・病院・老人保健施設等があります。利便性、環境がよいと、他地区から移り住む人が多く、昔からの住民より数倍人口が増え、活気ある地区になり、4月金毘羅神社例大祭、7月こんぴら山夏祭りでは、自治会、城栄会、子ども会、さわやかクラブの協力で、盛大に行われます。

1月とんどでは、子ども会で作った美味しい豚汁が、炎と共に体を温めてくれます。

地域も少子高齢化が進み、平成26年、内海・池田中学校が統合され、小豆島中学校に、今年4月内海病院が診療所になり、池田中学校跡地に、小豆島中央病院として開院されました。

来年度は、小豆島・土庄高校も統合され、蒲生地区へ移り、地域の医療、教育が大きく変わろうとしています。

小豆島全体の創生を考えると、片城地区住民としては、複雑な気持です。

地区内は、海拔が低く、巨大地震による津波を想定した訓練を、実施しているが、大きな建物は埋め立て地であり、高潮時等では、避難できず、高台に安心・安全な避難所（集会所）が必要です。

その際には、行政・地区住民のご支援・ご協力を宜しくお願い致します。



こんぴら山山頂より

議会を傍聴しませんか？

次回の予定は 12月中旬 です。

なお、小豆島町議会に政務活動費制度はありません。



星城校区・安全声かけ隊

わたくしたち星城校区「安全声かけ隊」(隊員65名)は、老人クラブ草壁福寿会(6単位クラブ、会員数290名、拠点は草壁公民館)のメンバーで構成されており、草壁地区にある保育園から高校の児童や生徒を見守る活動を、年間を通して実施しています。

また、他の部会と共に学校交流事業(しめ縄づくり、クリーン作戦、仲良し会など)に参加しています。

主旨として、子供は地域の宝、安全・安心は地域の手で、を合言葉に、町教育部のご支援や草壁地区各自治会のご理解のもと、青パトによる巡回等による情報を警察・学校と共有しながら、登校時の立哨(班別編成、地区内7カ所)と日常の見守りを行っています。

平成18年1月25日、不審者出没の報を聞き、未然防止のため何か役立つことはないか、小豆警察署と星城小学校に相談した結果、「安全声かけ隊」が創設されました。今日まで交通事故、



事件もなく、今年10年を迎えることができました。

老人クラブの目指すものは「健康長寿の町づくり」の推進役であります。そしてこれまで培ってきた豊富な知識や経験を活かした「新たな絆社会の構築」が重要な課題となっており、私たちの活動が、その絆社会の構築に繋がればと考えております。

どうか今後とも皆様のご理解とお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

「安全声かけ隊」
隊長 藤本 壽
「連絡先」 ☎(082)2461
※安全声かけ隊は10月27日に文部科学大臣表彰を受賞しました。

編集後記

「う・どん・こ」

讃岐うどんの話ではありません。

「運・鈍・根」と書きます。

「ものづくり」の3原則らしい。成功の3要因でもあります。

「運」とは、幸運を誘発するくらいの努力。

「鈍」とは、鈍いくらいの粘り強さ。

「根」とは、根気・根性であります。

この3要因を忘れずに地方復活のための「まちづくり」に生かしたいものです。

松下 さとし 記

本紙に対するお問い合わせは

■発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL(0879)75-1100 FAX(0879)75-0108

E-mail olive-gikai@town.shodoshima.lg.jp